

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 1 年 7 月 25 日 (2019.7.25)

【公開番号】特開 2019-92675 (P2019-92675A)
 【公開日】令和 1 年 6 月 20 日 (2019.6.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-023
 【出願番号】特願 2017-223168 (P2017-223168)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 6 F

【手続補正書】
 【提出日】令和 1 年 6 月 19 日 (2019.6.19)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】請求項 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【請求項 1】

遊技区間として、

遊技者に有利な操作態様を報知しない第一区間と、

遊技者に有利な操作態様を報知する場合を有する第二区間とを有し、

第二区間における遊技の実行に応じて更新可能な値を記憶可能な第 1 の記憶手段と、

第二区間における総差数に関する値を記憶可能な第 2 の記憶手段と、

第二区間の所定遊技において、所定遊技における差数に関する値（「差数に関する値」とは、1 遊技における遊技媒体の付与数から遊技媒体のベット数を減算した値とする。以下同じ。）と第 2 の記憶手段に記憶されている総差数に関する値とを加算した結果が正と判断した場合は、所定遊技における差数に対応した値に基づいて第 2 の記憶手段に記憶されている総差数に関する値を更新可能とする更新手段と、

第二区間の特定遊技において、特定遊技における差数に関する値と第 2 の記憶手段に記憶されている総差数に関する値とを加算した結果が負と判断した場合は、第 2 の記憶手段に規定値を記憶可能とする補正手段と、

第二区間における遊技の実行に応じて更新された値、又は第二区間における総差数に関する値に基づいて、第二区間を終了可能とする第二区間終了制御手段とを備えることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 1】

本発明は、差数に関する値に基づいて、遊技者に有利な操作態様を報知する場合を有する第二区間を終了可能とした遊技機に関するものである。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 0 4 】

しかし、前述の従来の技術において、有利区間を最大で 1 5 0 0 遊技又は払出し 3 0 0 0 枚に設定すると、有利区間や A T が画一的なものになってしまう。

本発明が解決しようとする課題は、遊技者に有利な操作態様を報知する場合を有する第二区間を、最大で 1 5 0 0 遊技又は払出し 3 0 0 0 枚にとられないで終了可能とした遊技機を提供することである。

【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 0 5

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 0 5 】

本発明は、以下の解決手段によって上述の課題を解決する。なお、カッコ書きで、対応する実施形態の構成を示す。

本発明（第 3 1 実施形態）は、

遊技区間として、

遊技者に有利な操作態様（ストップスイッチ 4 2 の正解押し順）を報知しない第一区間（通常区間）と、

遊技者に有利な操作態様を報知する場合を有する第二区間（有利区間）とを有し、

第二区間における遊技の実行に応じて更新可能な値を記憶可能な第 1 の記憶手段（有利区間クリアカウンタ）と、

第二区間における総差数に関する値を記憶可能な第 2 の記憶手段（差数カウンタ）と、

第二区間の所定遊技において、所定遊技における差数に関する値（「差数に関する値」とは、1 遊技における遊技媒体の付与数から遊技媒体のベット数を減算した値とする。以下同じ。）と第 2 の記憶手段に記憶されている総差数に関する値とを加算した結果が正と判断した場合は、所定遊技における差数に対応した値に基づいて第 2 の記憶手段に記憶されている総差数に関する値を更新可能とする更新手段と、

第二区間の特定遊技において、特定遊技における差数に関する値と第 2 の記憶手段に記憶されている総差数に関する値とを加算した結果が負と判断した場合は、第 2 の記憶手段に規定値（0（H））を記憶可能とする補正手段と、

第二区間における遊技の実行に応じて更新された値、又は第二区間における総差数に関する値に基づいて、第二区間を終了可能とする第二区間終了制御手段とを備えることを特徴とする。

【 手続補正 5 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 0 6

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 0 6 】

本発明によれば、総差数に関する値に基づいて第二区間を終了可能であるので、「遊技区間の遊技回数が所定の上限遊技回数（たとえば 1 5 0 0 遊技）に到達したとき又は有利区間中の払出し数が所定数（たとえば 3 0 0 0 枚）に到達したとき」という終了条件にとられないで第二区間を終了することが可能となる。

また、第二区間における総差数に関する値を、規定値を基準として更新することが可能となる。